

第2部 市民・事業者の活動と市の取り組み

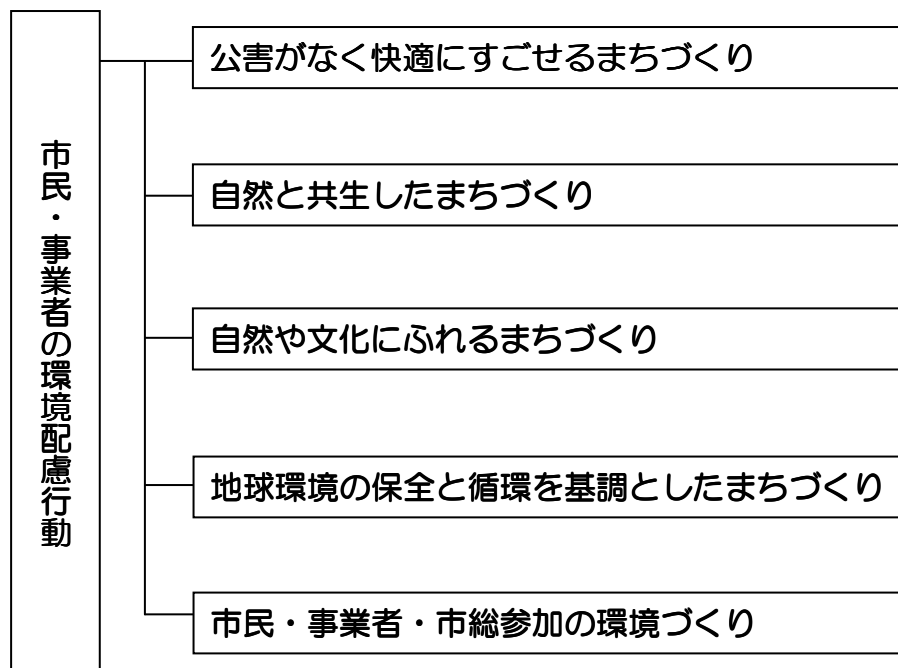
市民・事業者の活動

第2部では、実際に立川市内で環境配慮行動に取り組んでいる市民団体や学校、事業者の皆さんの活動と、それらの活動を広めていくための市の取り組みについて紹介いたします。ここで紹介する活動や取り組みは、市内で行われている活動の一部かもしれませんが、ご覧になった皆さんが、自分でもできる「環境にやさしい行動」を見つけて取り組んでいただくきっかけになればと考えております。

それでは、市民・事業者の皆様のご活動について、第3次環境行動計画に示された「市民・事業者の環境配慮行動」の分野ごとに、紹介させていただきます。

※ 紹介している各団体の取り組みは、市内の全公立小中学校、市との協働等による活動事例のある市民団体、市民活動センターたちかわに登録のある団体、NPOとして認証登録している団体、立川商工会議所を通じてご紹介いただいた市内事業所等に依頼した「環境関連活動調査」の調査回答に基づいています。

立川市第3次環境行動計画に示された 「市民・事業者の環境配慮行動」の分野別体系図



1 公害がなく快適にすごせるまちづくり

公害というと、かつて深刻な社会問題となった水俣病などの「産業公害」が連想されますが、現在は自動車からの排気ガスや家庭から出される排水など、より身近なものが原因となって環境に負荷を与えています。

特に、自動車からの排気ガスは大気汚染の原因となるだけでなく、CO₂排出の面からも地球温暖化の大きな要因の一つとなっています。（ちなみに都内全体から排出されるCO₂のおよそ2割が自動車からのものとされています。）電車やバスなど公共交通機関の活用や自転車、徒歩への転換など、なるべく自動車の利用を減らすことが大切なのはもちろんですが、かといって全く自動車を利用しないというのは現実的に難しいのも事実です。

そこで、車を運転する際になるべく環境負荷をかけないようにする「エコドライブ」のひとつの方法である、アイドリングストップ*について、普及・推進に取り組んでいる市内の事業所を紹介します。

交通システム電機株式会社

事業の名称：Intelligent Idling Stop System の開発とアイドリングストップの普及推進

事業の開始時期：平成9年5月

事業の協働・共催団体等：日本大学理工学部社会交通工学科
工学院大学工学部機械工学科

事業の概要：幸町にある「交通システム電機(株)」は、東京都内をはじめとする関東エリアや北海道などに設置されている信号機を製造・開発している会社です。

こちらの会社では、信号待ちのような短い時間でも15秒以上のエンジン停止が省エネルギーと地球温暖化防止に効果があることを実証し、信号待ちでのエンジン停止を促し、エンジン停止による発進遅れをなくすための始動時期を知らせる装置 IISS (Intelligent Idling Stop System) を開発しました。IISS は平成20年の川崎市環境局主催のアイドリングストップキャンペーンで採用され、臨港警察署前交差点に3台設置されました。

また、信号灯器のLED（発光ダイオード）化も急速に進んでおり、従来の電球式に比べ寿命が約6倍、消費電力が約1/4～1/5と、省エネ・省資源化に貢献しています。20年4月に行われた「環境フェア」では、信号機とIISSのデモ機を展示し、来場した方々にエコドライブの推進をアピールしました。



環境フェア会場で信号機とIISSを展示

ホームページアドレス：<http://www.tsec.co.jp/>

2 自然と共生したまちづくり

身近な環境に残された貴重な自然を守るための取り組みは、行政の取り組みだけでは限界があります。そこに住む皆さんに緑地や湧水などの価値や必要性を認識していただき、それを守っていくためにできる身近な行動を実行していただくことが非常に大切となっています。

ここでは、それらの取り組みを行っている市民団体を紹介します。

残堀川・鳴く虫愛好会

事業の名称：鳴く虫等の生息環境確保と飼育増殖活動

事業の開始時期：平成 17 年 9 月

事業の協働・共催団体等：玉川上水の自然保護を考える会、なんでも遊び塾

事業の概要：残堀川の川沿いに聞こえる虫の声。この音色は、秋が近づいたことを知らせるだけでなく、そこに虫たちが生息できる自然環境があることを教えてくれます。

「残堀川・鳴く虫愛好会」は、カンタンやスズムシ、マツムシなどの鳴く虫に親しみながら、生態観察、飼育普及、生息環境の確保などを通じて、自然環境の保護・育成を図り、生物多様性の実現・季節感の回復を進め、心の潤いの場づくりを目指した活動をしています。

平成 22 年度は、月 1 回の定例活動で飼育研究の講習会や情報交換会を行いました。また、飼育箱作りの臨時活動も行いました。さらに「なんでも遊び塾」と連携して地域の方々向けの「鳴く虫を聞く会」を開催しました。会では、スズムシの配布も行いました。

これらの取り組みにより、①他の生物との共生について感心を高める（生物多様性への理解を深める）、②身近な自然環境の大切さについて理解を深める、③「心の潤い」をもたらし人間性の回復を促進する、④地域の自然環境が維持向上される、などの成果を目指しています。

今後は、生息区域の確保、飼育技術の研究を進めるとともに、玉川上水の緑道や見影橋公園等で鳴く虫が自然発生することを目指して取り組みを進めます。

連絡先：立川市砂川町 7-56-59 電話 042-537-3905 代表者 眞壁繁樹

玉川上水の自然保護を考える会

事業の名称：玉川上水と周辺の自然環境の保護・復元活動

事業の開始時期：平成元年 12 月

事業の協働・共催団体等：こんぴら橋会館管理運営委員会、手づくり公園の会、
なんでも遊び塾、残堀川鳴く虫愛好会、三昭会（砂川三番組住民組織）

事業の概要：砂川地区を横断する玉川上水は、多摩地域と区部を結ぶ「水とみどり」の貴重な自然が残された空間であり、様々な生物が生息しています。玉川上水と周辺の自然環境を保護し回復することで、よりよい地域環境づくりと、活動を通して地域の方々とふれあい交流を深め「ふるさとづくり・まちづくり」を推進しています。

具体的な活動としては、国の史跡であり都の歴史環境保全地域である玉川上水を地元の貴重な財産として保護し、より良い地域環境づくりをすすめるため、緑道や水路等の清掃活動、貴重な野草の保護・復元、樹名札の設置や野鳥が住みつくための巣箱の設置、ホタルの復元などを行っています。

平成 22 年度は、毎日第 1、第 4 日曜日に定例活動を実施し、除草や清掃活動、巣箱の設置、ホタルの発生・飛翔調査などを行い、なんでも遊び塾と連携し、玉川上水親子自然観察会、野草観察と野草料理などを行いました。

また、市民活動センターの夏休みボランティア体験者（都立立川高校・大原簿記学校の生徒）を受け入れました。さらに、玉川上水保全計画・都区市住民協議会に参画しています。ハイケボタルの飼育を開始（4000 匹）しました。

これらの活動により、野草の復元による季節感のある自然環境や野鳥を

はじめとする様々な生態系*の復活が見られるようになり、近年では、初夏の風物詩であるホタルの観察会も恒例の行事として定着してきました。

今後は、今までの活動に加え、①ハイケボタルの育成、②見影橋公園や残堀川などへのハイケボタルの放流、③残堀川の自然環境政策の検証、④玉川上水の季節感の復元推進を考えています。



新家橋架け替え工事に伴い行われた、野草の移植作業による保護活動の様子（平成 16 年度）

連絡先：立川市砂川町 3-1 4-8 TEL/FAX 042-536-1955 代表者 柴 俊男

3 自然や文化にふれるまちづくり

市内では、「人が手をつけていないありのままの自然」ではないものの、多摩川をはじめとする河川や畑などの農地、家々の生垣やガーデニングを施した庭など、より身近な自然や緑も見ることができます。

ここでは、これらの自然や緑の保護・育成や、まちの清掃美化活動などに取り組んでいる団体などを紹介します。

立川市立立川第七中学校

事業の名称：通学路の清掃活動

事業の開始時期：昭和53年（開校時）

事業の協働・共催団体等：生徒会 七中PTA

事業の概要：「第七中学校」は、市の西部、西砂町にある中学校です。

「第七中学校」では、開校時からの恒例行事として年1回、生徒とPTAが協力して、通学路や公園のゴミ拾い清掃を行っています。これは、通学路の汚れという身近な問題をとおして生徒たちの環境に対する意識を向上させるとともに、地域に生きる一員であることを自覚して地域貢献の意識をもたせることを目的としています。

平成22年3月13日に実施した際は、雨にもかかわらず、生徒約60名、保護者・教員約30名が参加しました。清掃活動後には、PTA 校外部の方々が温かいスープなどを作ってねぎらってくれるなど、地域やPTAの方々との交流を深める機会にもなっています。また、地域清掃、通学路清掃という具体的な形に表すことは、地域や学校を愛する気持ちを育て、確認することにつながっています。

今後も清掃活動を継続し、生徒会、PTAが協力してより多くの方の参加を呼びかけていきます。また、学区の小学校との連携を図り、活動を計画していきます。



清掃活動後の様子

連絡先：立川第七中学校 立川市西砂町6-28-3 042-531-0511

ホームページアドレス：<http://www.m-net.ne.jp/~dai7/index.html>

立川市立第四小学校

事業の名称：学校周辺の清掃活動・落ち葉掃き

事業の概要：富士見町にある「第四小学校」では、年2回の地域清掃活動と秋の落ち葉掃きを恒例行事として行っています。

年2回行われる地域清掃活動は、自分たちの住む富士見町の公園等を中心に、高学年の児童が参加して行い、地域をきれいにするを通して地域に密着を持たせることを目指しています。

秋の落ち葉掃きは、午前中の中休みを利用して全校生徒が参加します。1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生がそれぞれペアになって、校庭内と学校周辺の落ち葉を集めています。

これらの活動を通して、児童が自分たちの地域に目を向けるとともに、ポイ捨てなどの心無い行為が及ぼす悪影響について意識するようになり、環境を大切に作る心の育成につながっています。

また、東京都環境局より寄贈された芝生は、組み体操などの秋の運動会の練習に適していました。芝の上で、裸足になり、体育や遊びなど、子どもたちは安心して運動できました。芝の上に寝転がりながら好きな遊びをするなど、子どもたちにとって、緑のじゅうたんは、憩いの場所となっています。



芝生の上で組み体操

校舎南面を利用して緑のカーテンを作り、収穫したゴーヤは、給食の食材として使用しました。



みどりのカーテン

グリーンアドベンチャーとして、校庭の樹木すべてに樹名札をつけ、樹木の名前をクイズ形式で覚えています。クラスの木をきめて、大切に育てる気持ちも養っています。

朝日新聞にも掲載され、「たちかわ環境賞・こぶし賞」を受賞しました。



グリーンアドベンチャー
みどりのちず

今後も日常的な教育活動の中でも、環境を大切にする心の育成を図っていきます。

連絡先：立川市富士見町4-4-1 042-523-5228

ホームページアドレス：<http://www.m-net.ne.jp/~dai4s/>

立川市立若葉小学校

事業の名称：ごみ出しボランティア活動

事業の開始時期：平成 12 年

事業の概要：若葉町にある「**若葉小学校**」では、平成 12 年に始まった総合的な学習の時間をきっかけに、子ども達が自ら「ゴミゴミ探検隊」というまちのごみ拾いを行うボランティアグループを立ち上げました。

自分達の街を自分達の手できれいにすることで、環境美化への関心が高まるとともに、地元の理解や協力が得られるようになりました。

その後、子ども達が登校途中に若葉町団地の階段の上り下りなどが困難なお年寄りのお宅に寄り、ごみ出しを代わりに行うボランティア活動を週 2 回行うようになりました。23 年度は 4 年生～6 年生 28 名の子ども達が、年間を通して 6 軒の高齢者のごみ出し活動を行いました。



ごみ出しボランティア活動で高齢者世帯を回る若葉小の児童たち

活動している子ども達は、高齢者の方から「ありがとう」と言ってもらえることを励みにして、学校の休みの日にも休まず活動を続けています。

この活動を通じて、高齢者をはじめとする地域住民との交流が深まるとともに、高齢者への思いやりと環境美化への理解向上につながりました。

平成 20 年度からは「若葉小ボランティアサークル」に、活動は引き継がれています。その活動が広く認められ、毎年のように表彰されています。

昨年度は、東京都教職員互助会より「ふれあい感謝状 21」優秀賞を受賞いたしました。

表彰の都度、全校児童の前で紹介し、賞賛しています。今後も地域のの人に少しでも役立てることに喜びをもたせられるように活動を推進していきます。

連絡先：立川市富士見町 4-4-1 042-523-5228

ホームページアドレス：<http://www.m-net.ne.jp/~wakabas/>

立川市立立川第九中学校

事業の名称：落ち葉掃きボランティア

事業の開始時期：平成14年12月

事業の概要： 「第九中学校」は、若葉町団地やけやき台団地等のある住宅街だけでなく、周りにまだ多くの畑が残る緑豊かな地域を学区としています。

生徒の発案で、落ち葉掃きを中心とした第九中学校周辺の清掃活動ボランティアを生徒に呼びかけています。

平成22年度は、12月初旬に実施し、約120名の生徒が参加し学校周辺の落ち葉掃きとゴミ拾いを行いました。

清掃活動を通じて、お世話になっている地域に対して感謝の意を表すことにつながり、生徒たちの奉仕の精神を育成できています。

平成23年度も12月初旬に2日間行う予定です。

今後は、生徒の全員参加を目標に、参加人数を増やしていきます。



生徒たちの清掃活動の様子

ホームページアドレス：<http://www.m-net.ne.jp/~dai9/>

立川ホテルの会
(旧名：富士見町に蛍を呼び戻す会)

事業の名称：用水等を清掃し、自然環境を改善し蛍を羽化・飛翔させる（蛍を蘇らす）事業

事業の開始時期：平成14年2月

事業の協働・共催団体等：東京のあすを創る協会、立川新生活の会、東京ホテル会議 他

事業の概要：立川市内には、かつて田んぼに水を引くために作られた用水や生活用水として引かれた分水が今も街中を流れており、富士見町を横断する昭和用水もそのひとつです。

「立川ホテルの会」の活動は、立川新生活運動推進協議会（立川新生活の会）の活動として行っていた用水路等の清掃活動に端を発しています。当初、立川新生活の会は、清掃活動だけでは協力体制に限界を感じていました。活動を続けるため、40年前に姿を消してしまった蛍を蘇らせるという夢のある目標を掲げ、平成14年「富士見町に蛍を呼び戻す会」を発足しました。

当初の2年間は、ヘドロ化した用水路の清掃と、柴崎分水で採取したカワニナ（蛍の餌となる巻貝）の放流、その繁殖・定着に明け暮れ、3年目に、水槽で終齢期まで飼育した源氏蛍の幼虫を春先に用水路に放流し、初めて蛍の飛翔に成功し、以来毎年蛍が飛翔を続けています。しかし、自然に羽化・飛翔させる「自生蛍」は難しく、試行錯誤を重ねつつフィールド活動を続けています。

18年度に、「自生蛍」に近づける第一歩として、9月に用水路に放流し、繁殖し始めたカワニナを餌に自力で成長し、冬を越して上陸・羽化させましたが、前年度の飛翔数に比べ少なくなっていました。19年度には、蛍の幼虫を水槽で越冬させ春先に用水路に放流する従来の方法に戻しましたが、飛翔数は18年度並の40頭弱でした。20年度も同様に40頭弱の飛翔でした。20年度には、昭和用水以外に柴崎分水で「自生蛍」が80頭羽化・飛翔したので、管理場所の拡大の必要から「立川ホテルの会」と名称変更しました。

当初、汚泥やヘドロにまみれていた用水路も、現在ではある程度清流化し、蛍の飛翔に見られるように、水生生物の生息数も増え、本来の自然環境が戻りつつあります。一方で、蛍の成長に必要な暗がりの確保、餌であるカワニナの繁殖などの課題もあり、活動している人の高齢化によるフィールド活動の参加人数の減少も問題となっています。



定期的に行われている用水路の清掃活動

連絡先：立川市富士見町5-9-9 立川ホテルの会会長 山本英樹 電話 042-523-1867

立川・手づくり公園の会

事業の名称：公園清掃美化活動・子ども居場所づくり事業

事業の開始時期：平成13年10月

事業の協働・共催団体等：立川市公園緑地課、玉川上水の自然保護を考える会
なんでも遊び塾、残堀川鳴く虫愛好会

事業の概要：子どもたちは公園での遊びを通じて、自然界の厳しさ、やさしさ、楽しさ等を体で覚えます。また、公園に生きている生きものとの触れ合いをとおして命の大切さを学んだり、小さな生きものを慈しむ心を育んだりします。

「立川・手づくり公園の会」は上砂町5丁目にある下砂橋遊び場の清掃美化を主な活動としながら、

①環境学習の場にふさわしい生態系豊かな公園づくり

一例：公園内に昆虫の生息空間を確保するため除草しないエリアを設定、カブト虫が産卵できる場所として落ち葉ボックスの設置など

②うるおいのある公園づくり

を目指して活動しています。



どんぐり工作を楽しむ



やきいもづくりの体験

月3回の公園美化作業（ゴミ拾い・除草・花苗移植など）のほか、イベントとして公園内の自然観察や麦打ち体験、どんぐり工作やジュズダマのお手玉づくりなど自然の素材を使った昔遊び体験、地域の子育てグループと一緒に花植えや餅つき交流などを行っています。また、活動エリアにある上砂川小の総合的な学習の時間と上砂川小学校放課後プランへの支援を行っています。さらに、平成22年度は市内全校20小学校でのヤゴの救出作戦に延べ50人のスタッフを派遣しました。

ヤゴの救出作戦を行うことで、市内の小学校との交流が始まり、昔遊びの支援や放課後プランへの支援など活動が広がっています。

今後は、今まで行ってきた活動の継続を図り、砂川地域での活動を充実させていきます。課題としては、若手人材の確保があります。また、中高生ボランティアの受け入れ体制を整備することや、残堀川・鳴く虫愛好会と共同して鳴く虫エリアの造成などの公園づくりを目指します。

立川市高松児童館

事業の名称：緑のカーテンサポート隊・火ばさみ隊

事業の開始時期：平成21年5月

事業の概要：**高松児童館**は、立川税務署の斜め前、高松会館の2階にあり、立川でいちばんスモールな児童館です。児童館では、「緑のカーテンサポート隊」と「火ばさみ隊」の活動を行っています。

「緑のカーテンサポート隊」は児童館の草花の手入れをしている職員のお手伝いをした来館児童の行動がきっかけで、結成しました。児童館の一角に「エコカーテン」を張ることを第1の目的として、「エコカーテン計画」を立て、風船かずらなどのツル植物を植え、サポート隊の子どもたちが主体となり水やり、草取りなど、植物の世話をしました。秋には実や種を収穫し、地域の人たちに配布する「お花の種袋」を作成しました。ヒョウタンはランプにし、12月の「高松児童館のサイレント・ナイト」で点灯しました。



「緑のカーテンサポート隊」に参加した子どもたちは、児童館を取り巻く土の少ない環境の中で、プランターや発泡スチロール箱を使用して、いろいろな植物を育て、収穫することで、土いじりの楽しさや、植物栽培の楽しさを知ることができました。



「火ばさみ隊」は平成22年1月に「新春ゴミ拾い大会」という名称で、地域の人たちに環境美化に取り組みを知ってもらい、子どもたちの環境美化のきっかけ作りを目的に第1回目を行いました。高松町、曙町地域のポイ捨てゴミを拾って歩きました。近隣の人たちから温かい声援をいただくこともあり、子どもたちは達成感を感じられました。また、子どもたちが大人の良心を刺激するのか、近隣のポイ捨てが減ってくるというメリットもありました。



いずれの活動も、異学校区、異年齢の子どもたちが仲良しになるきっかけにもなりました。

連絡先：立川市高松町2-25-26 電話 042-528-2925

<http://www1.whi.m-net.ne.jp/manbow-j/1kakukan/4takamatu/takamatu/indexhtml>

NPO 法人 自然文化誌研究会

事業の名称：『子どものための冒険学校』 『ELF 環境学習中堅指導者（のびと）研修会』
『のびと講座』『ログビルダー養成講座』『エコミュージアム日本村構想』など

事業の開始時期：昭和 50 年

事業の協働・共催団体等：東京学芸大学、山梨県北都留郡小菅村の諸団体
三菱 UFJ 環境財団

事業の概要：自然文化誌研究会は 30 年近くにわたり、多くの青少年、市民とともに環境問題を解決する主体的な活動団体となり、持続可能な社会の創造に寄与することを目的に、主に多摩川源流小菅村（山梨県）で活動しています。

①『子どものための冒険学校』

環境学習のジュニアリーダーの育成を目的に、青少年を対象とした長期キャンプを行います。
全 5 回（2 泊 3 日×4 回、5 泊 6 日×1 回）参加者 70 名 スタッフ 120 人(延べ人数)

②『ELF 環境学習中堅指導者（のびと）研修会』

環境学習の指導者を育成する研修会で、環境学習の普及啓発を行います。4 期行い独自の「のびと認証」だけでなく、CONE リーダー、コーディネーターも認定しています。

③『のびと講座』：味噌づくりや野草の天ぷら会などの体験を楽しんでもらう講座です。きのこ採りや星空観察会など適宜開催しています。

④『ログビルダー養成講座』：地元産材を用いながら養成講座を行っています。

⑤『エコミュージアム日本村構想』

小菅村を中心とした源流地域をエコミュージアムとして整備しています。

多摩川源流小菅村（山梨県）での活動が多く、参加者と地元民が交流を図ることができています。交流の中で、参加者は田舎の文化に触れ、持ち帰ることができ、地元民は、講師として交流することで、活性化と自分たちの文化に誇りを持つ、価値を感じることができています。田舎は過疎でありその地域のみでは文化や技、智慧が継承し切れていないので、お互いに良いと考えています。



キャンプ後の様子

今後は『ELF 環境学習中堅指導者（のびと）研修会』に力を入れ、資格の認定だけでなく、働く場所や資格が生きる事業を作っていきたいです。

連絡先：〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 4115 電話：0428-87-0165

ホームページアドレス：<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

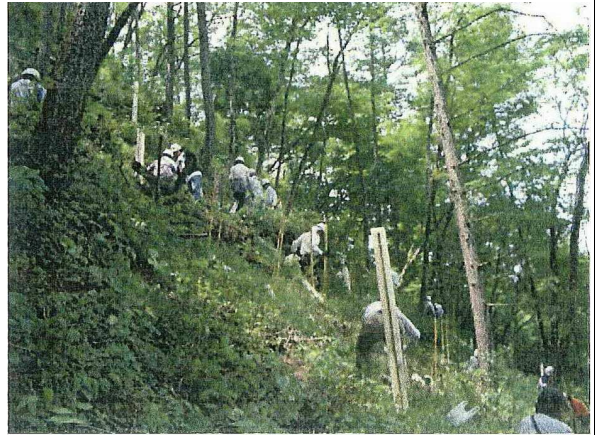
日本たばこ産業株式会社 立川支店

事業の名称：森林保全活動の展開

事業の開始時期：平成18年5月から

事業の協働・共催団体等：行政、北都留森林組合 他

事業の概要 立川市錦町にある「日本たばこ産業(株)立川支店」は、多摩地域及び山梨県を管轄している支店であり、事業活動と環境との調和を考え、さまざまな活動に取り組んでいます。特に「森林保全活動」は、多摩川の水源地である山梨県北都留郡小菅村(きたつるぐんこすげむら)で平成18年5月より年2回(春・秋)活動を行っています。東京・神奈川の水源地という特性から針葉樹を間伐後、広葉樹を植えていく「混交林づくり」という活動に取り組むことで、水源の森としての水源涵養(かんよう)機能を高めることを目指しています。活動としては社員・その家族を含め平成22年5月は植林、10月は下草刈りを行いました。参加者は毎回100名を越え、定着した活動となっています。



自然の恵みがあることでJTグループは事業を行うことができることから、事業活動を支えてくれる自然への感謝の思いと地球環境を大切にする気持ちから「森林保全活動」に取り組んでいます。今後も、社会と共生する“良き企業市民”であることをめざし、環境問題を地域の方々と共に考えていきたいと思っています。

ホームページアドレス：<http://www.jti.co.jp/>